

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

「斐太を語る君たちへ」 ～ユネスコスクールのまなざしで未来へ～

7月4日(金)5時間目に、元妙高市教育委員会教育長の川上 晃さんをゲストティーチャーとしてお招きし、5・6年生が交流しました。活動の中で、「斐太地区や妙高市のいいところをあげてみよう」と呼びかけた場面がありました。子どもたちは、美しい自然、名物、歴史ある場所や有名な観光地など、次々と語り出しました。そこには、地に足のついた誇らしいまなざしがありました。



その一方で、「新潟県のいいところ」「日本の魅力」や、さらにその先にある「世界の人々とのつながり」といった視点は、なかなか出てきませんでした。これは、子どもたちに何かが欠けているということではありません。これが、今の子どもたちの見つめている「世界」なのです。むしろ、地元をしっかりと見つめているからこそ、今こそ視野をもう一段広げていくチャンスなのだと、私は感じました。

川上先生のお話の中に、「斐太北小学校だからこそできること」として、「世界とつながり、世界とやりとりし、世界の学校と交流してほしい。そのために、コミュニケーションの力と英語の力が必要だよ。」という言葉がありました。

ユネスコスクールに登録された今、斐太北小のESDは、「地元から世界へ」の視点を持つことが不可欠です。異文化理解、国際的な課題、持続可能な社会づくり——どれも、これからの学びに欠かせない柱です。

6年生では、この交流をきっかけに、自分の今いるふるさとのことを「知ってもらいたい」「伝えたい」、もっと世界のことを「知りたい」「つながりたい」と志向し始めました。



6年生の修学旅行はこれからです。この話し合いの先に、学びたいこと、学びたいもの、出会いたい人が…おぼろげに見えてきました。